



そのとき、110番？それとも #9110？ 相談したい！ #9110

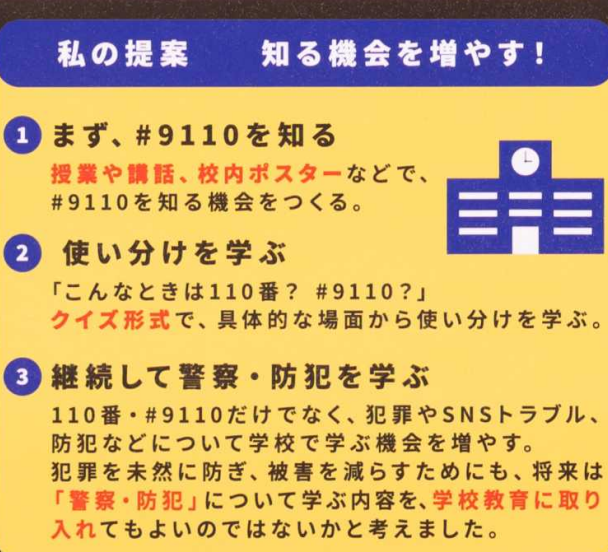
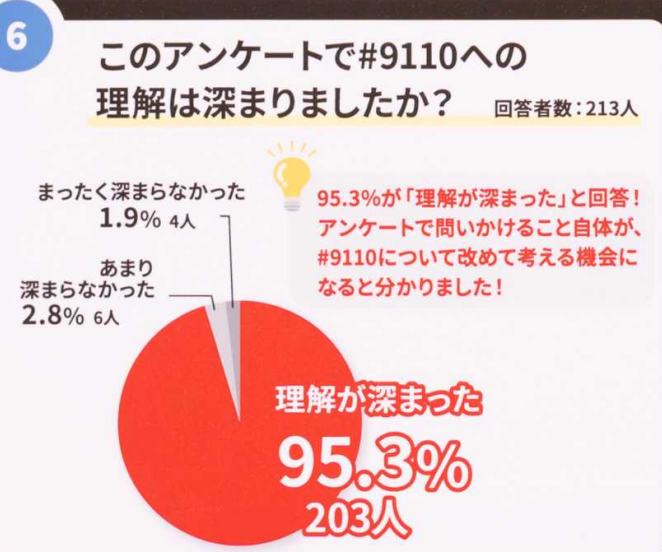
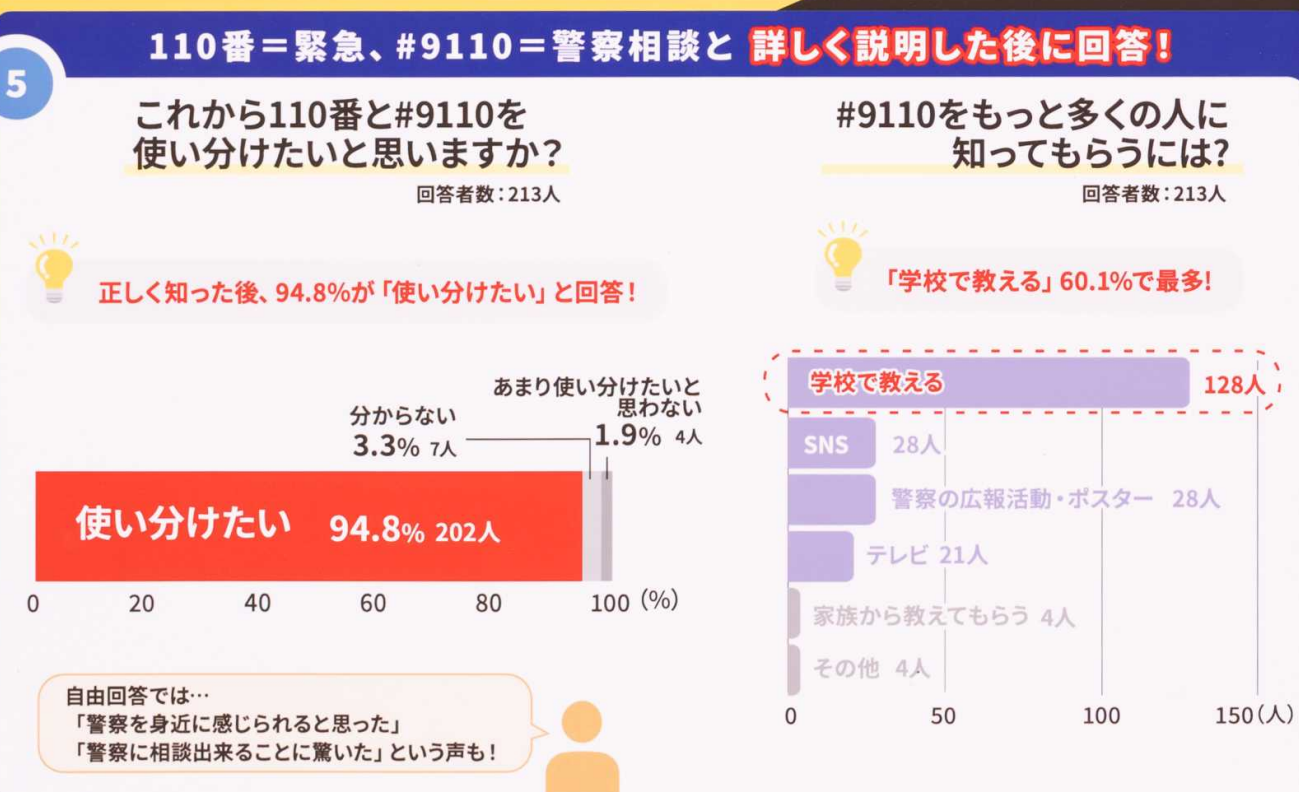
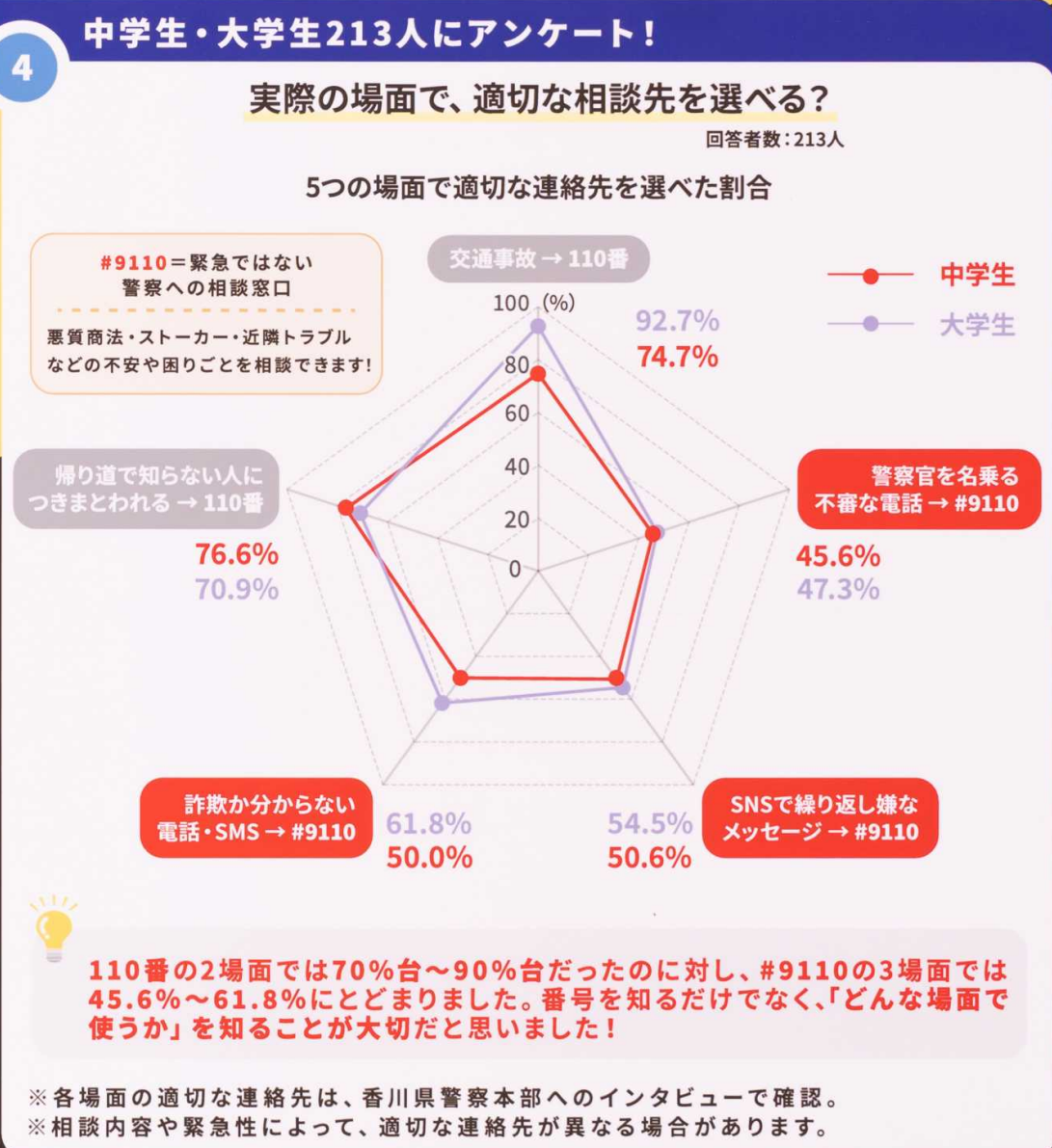
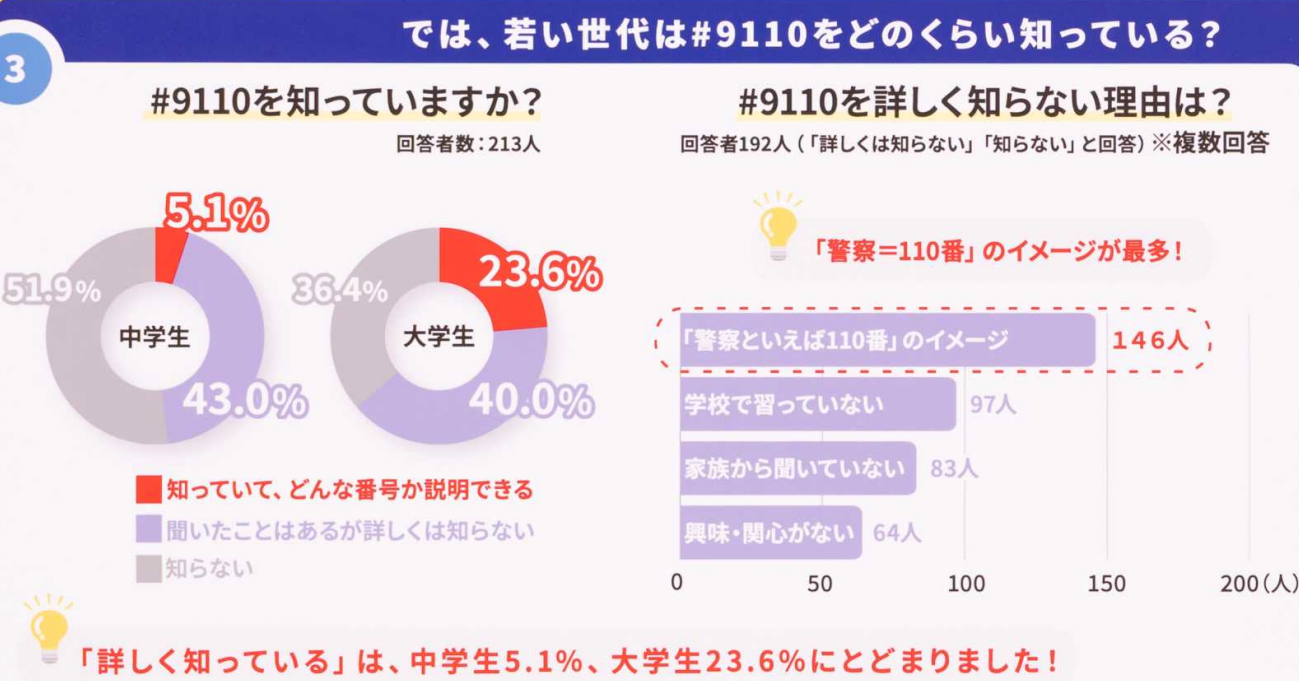
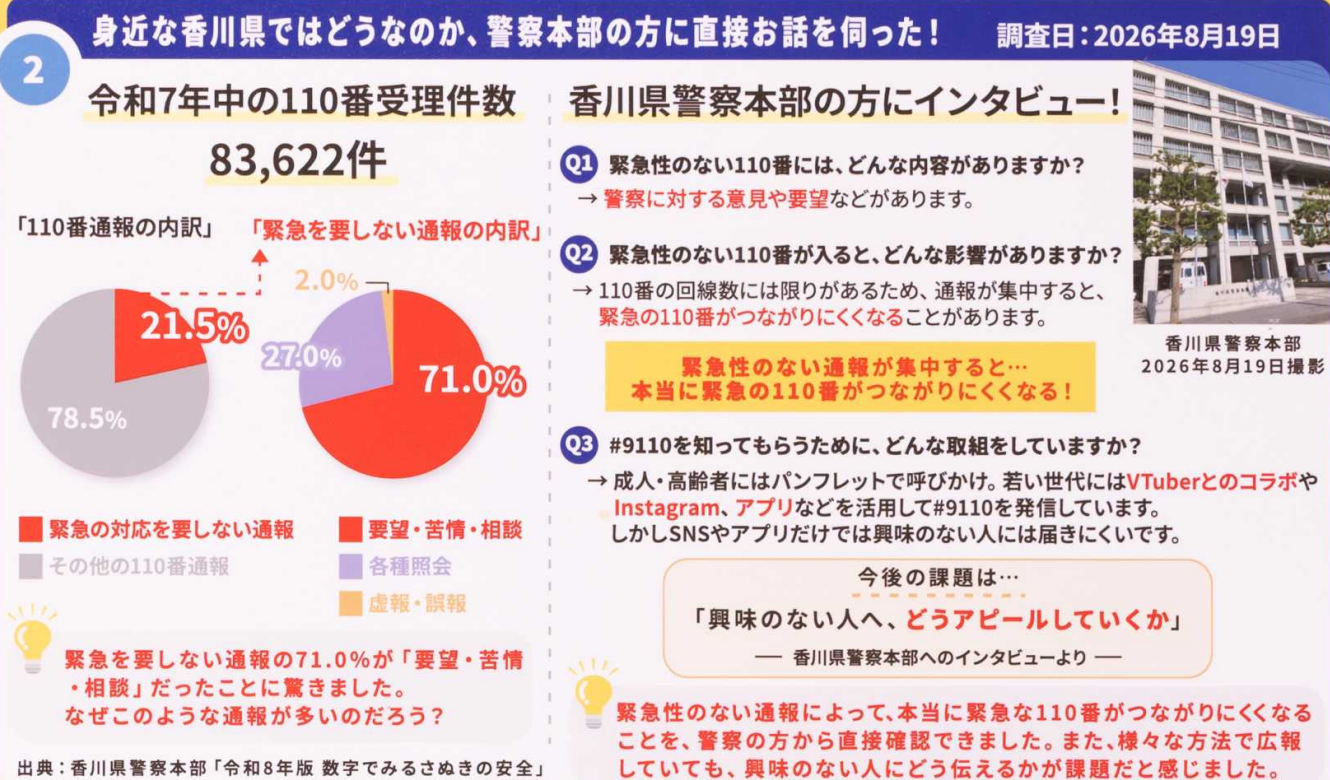
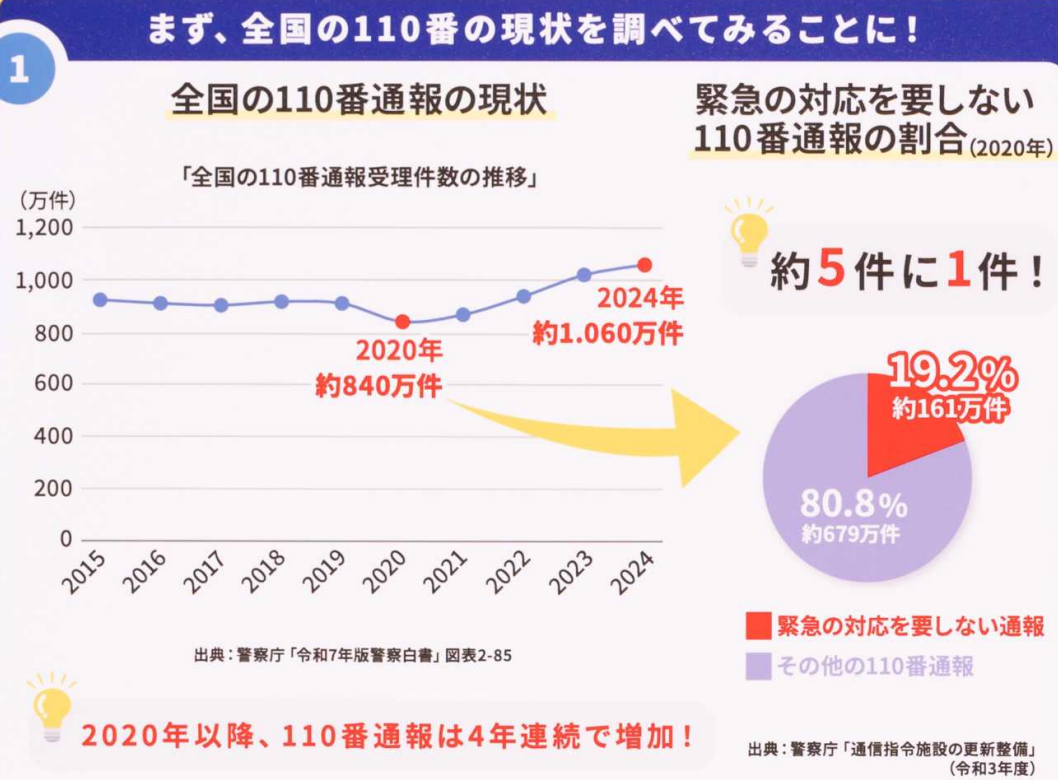
正しく選ぶことが、誰かを救う！

— 213人の「判断」と、理解が深まった95.3% —

〈動機〉

ニュースで緊急性の低い110番通報が多く、本当に助けを必要としている人への対応に影響が出ていること、警察相談専用電話「#9110」があることを知りました。私自身、それまで#9110の存在を知りませんでした。そこで、「知らないこと」が適切な相談先を選べない原因の一つではないかと考え、中学生と大学生を対象に#9110の認知度や実際の場面での判断について調査し、状況の改善につながる方法を考えることにしました。

香川大学教育学部附属高松中学校1～3年 計158名
香川大学 教育学部1～4年生 計55名
合計213名
令和8年7月13日～7月18日調べ



〈まとめ〉

今回の調査から、#9110を知らない人が多いだけでなく、知っていても実際の場面では110番と#9110のどちらを選べばよいかわからない人がいることが分かりました。110番と#9110の役割や使い分けを説明した後は、213人中202人(94.8%)が「これから使い分けたい」と回答し、203人(95.3%)が「理解が深まった」と回答しました。この結果から、緊急性の低い110番通報を減らすためには、#9110という番号を知らせるだけでなく、「どんなときに110番を使い、どんなときに#9110を使うのか」を具体的な場面とともに学ぶ機会を増やすことが大切だと考えました。特に、#9110を広める方法として「学校で授業や説明をする」という回答が多かったことから、学校での学習や、SNS・ポスターなどを通して伝えることが、改善につながるのではないかと考えます。一人ひとりが「知る」だけでなく「正しく選べる」ようになれば、緊急性の低い110番通報を減らし、本当に助けを必要としている人への迅速な対応につながると思います。今後は、幅広い年代に調査を広げ、年代による認知度や判断の違いを調べたいです。Webアンケートなどを活用して他県にも調査を広げ、地域による意識の違いについても比較してみたいです。

正しく選ぶことが、本当に助けを必要とする人への迅速な対応につながる！
緊急の事件・事故は **110番**
緊急ではない相談や問合せは **#9110**